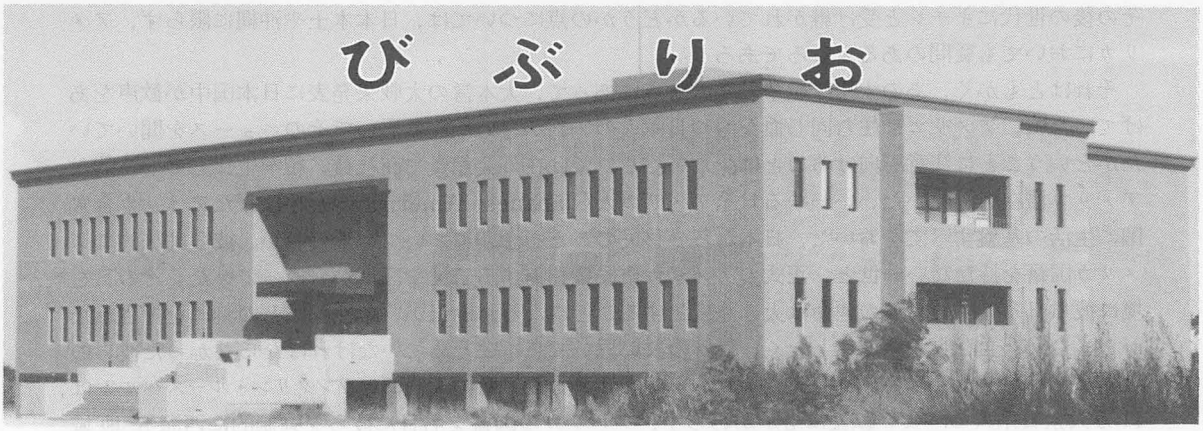

VOL. 15　NO. 1　The University of the Ryukyus Library Bulletin　1982. 2. 27

館員のレポート

日本とアメリカのあいだで

伊　佐　真　一

移動先は北国とのみ逐はれゆく羊群の如く汽車に乗せられつ
鉄柵の中より出で征く二世らよこの国を祖国として疑わず
現実の険しさに対いわが心凝りしひとときはうつろに似たり

加　藤　はるえ
（『日系米人文芸集　歩み』から）

日本からの移民がアメリカにその第一歩をしるしてから，ほぼ一世紀を迎えようとしている。そして，ハワイへ渡った沖縄移民からかぞえても約80年。1981年11月5日付『北米毎日新聞』は，「百歳の長寿祝う新垣翁　セルマ」の見出しに続いて，「沖縄県北中城村出身・北米沖縄クラブ会員で中加フレスノの南方セルマに在住の新垣吉信氏は百歳の誕生日を友人・知人家族とともにこのほど祝った。沖縄県の移民第一陣としてハワイに渡航後，アイダホで鉄道工夫，フレスノ付近で農業に従事，戦後アリゾナ州ヒラ収容所から出所後はセルマでイチゴやブドウを作ってきた。なお同氏の長寿を祝ってレーガン大統領からの祝電，八月ロサンゼルスに立ち寄った西銘順治・沖縄県知事などからも記念品が贈られた。」の記事を載せている。福禄寿の掛け軸を背景に，折目正しく背広に身をつつんで，何かの感謝状を胸にかかげている姿は，いかにも異境の地で苦労をかさねたひとの実直さが出ており，たしか井上靖の『わだつみ』のなかで描かれた主人公の両親も同じフレスノだったと思うが，少なくとも表面的には「無告の民」とか「棄民」などと言われた移民のイメージからはほどとおいものを感じさせた。しかし，上記の簡単な略歴から推則するだけでも，外見からはうかがいしれない心の闇の部分をどこかに持ちつづけていることもありうるのである。

ところで，今年は，昭和16年12月7日（日本時間の8日）の日本海軍による真珠湾奇襲攻撃から，ちょうど40年目にあたる。あれからすでに半世紀ちかい歳月が流れ，かつ人口の過半数を戦争の直接体験を知らない戦後世代が占めた現在，かつて日米両国民を3年半にわたって辛苦の淵におとし入れた太平洋戦争も「過去の事件」となりつつあるように見える。今日のアメリカは，太平洋戦争を含めた第二次世界大戦を，もういちど自分たち国民と国家，ひいては民主主義との関連で考え直すとい

うよりも，今だに精神的傷あとのなまなましいベトナム戦争の方に重点があるのだが，過去の教訓がその後の世代にキチンと受け継がれているかどうかの点については，日本本土や沖縄に限らず，アメリカにおいても疑問のあるところであろう。

それはともかく，あの太平洋戦争勃発の時点にあって，大本営の大戦果発表に日本国中が歓声をあげていた頃，アメリカに住む同じ血をもつ日本人の一部が，いかなる思いでそのニュースを聞いていたかということに注意を向けることは少ない。ここでは在外公館員や商社員，留学生などの一時的なアメリカ滞在者を除いた，いわゆる日系アメリカ人（Japanese American）と呼ばれたアメリカ合衆国に生活の基盤すべてをおいた，日本からの移民のことを念頭においているのだが，彼らは法的にアメリカ国籍を持たない一世と，正式のアメリカ市民権を有する二世や三世から成っていた。その日を境に彼ら日系アメリカ人の運命は大きく変化することになるわけだが，敵性国民との刻印を押されながら，白人社会を刺激することなく，肩身の狭い思いで息をひそめていなければならなかった彼らの心中はどうだったろうか。そして，それからほぼ2ケ月後，時の大統領フランクリン・ルーズベルトは，11万人余日系人のつよい願望にもかかわらず，アメリカの国益を名目に彼らを強制的に西海岸地域から内陸地へ一括収容する旨の決定を下した。当時，アメリカにおける日系人の大多数はカリフォルニアに住んでおり，そこでは州人口のわずか1％ではあったが，一世たちによる長年の苦闘の結果は，まがりなりにも生活が安定し，その社会に確固たる地位を築きつつある頃であった。その辺のいきさつを『アメリカ強制収容所』（1973年邦訳）の著者ミチコ・ウェグリンに語ってもらうことにする。この女性は，両親を日本人にもつ日系二世である。

> 何世紀にもわたって受け継がれ改良された耕作技術を日本から持ってきた一世たちは，カリフォルニアで良質の作物を生産できたばかりでなく，その価格を下げることさえできた。人口密度の高い南カリフォルニア地方における果実や野菜の小売り販売網は，すでに強固に防備された日系アメリカ人の独占事業になっていた。そしてそれら日系移民たちが肥沃な土地の多くを，支配下において伸びていけたのは，アメリカ市民である二世たちの名儀で所有権を確保したからであった。
>
> さきに中国からきた移民の例があったように，日本人の移民たちもアメリカ市民になる権利を拒否された。帰化する権利がないため，彼らは土地を所有することができないのだった。借地権にしても，一九一三年の法律によって，わずか三年間に制限されていた。しかし一世はこうした，東洋人をカリフォルニアからはじき出すための法的規制の網をくぐる方策を，見つけていったのだが，なかでもいちばんよく使われた手段が，米国市民権を持つ子どもたちの名義で不動産を購入することだった。
>
> 狭くてだれも買わないような土地を，安くあちこちで買い集めるというのが，一世たちのひとつのやり方だった。白人たちが労働力を投入したがらない，沼地や不毛の砂漠地帯などがその例だったし，高圧電線が通っている場所，ダムや鉄道のすぐそばといった危険地帯にも，一世たちは喜んで金をはたいた。勤勉で質素な一世たちの並はずれた努力と士気は，ひからびた荒地や湿地でさえ，（通常家族全員の加勢によって）豊かな草地や果樹園に変えることができたのだから，伝説にのこる業績となった。

以上のような一世たち移民の，生涯をかけた骨身をけずるような努力の結晶ともいうべき農場や商店などの財産，そして社会的信用も日米開戦の翌年2月19日，ルーズベルトが大統領行政命令第9066号にサインをしたことにより，一朝にして露と消えてしまうことになったのである。軍隊の監視下で，彼ら日系アメリカ人が追われるように送り込まれたところは，かつてはインディアンの保留地だったところや，見果てるかぎり砂漠のつづく，人跡ないアリゾナやコロラド，ユタ，アイダホなどの荒野であった。これら10ケ所の配置先は，その中央に監視塔をもち，周囲を有刺鉄線と銃をかまえ

た番兵にかこまれた強制収容所であった。以下，各強制収容所を列記すると，ポストン（Poston），マンザナア（Manzanar），ツール・レーク（Tule Lake），ヒーラ（Gila），ミニドカ（Minidoka），トパーズ（Topaz），ハート・マウンテン（Heart Mountain），グラナダ（Granada），ローワー（Rohwer），ジェローム（Jerome）になるが，そのほかにも司法省の収容所が，テキサスやニューメキシコ，アーカンソーなどの諸州に設置された。かつて明治の自由民権運動で活躍し，北村透谷の妻・美那子を姉にもつ石松公歴が，失意のうちに死んだのはマンザナアであったし，豪商として名を成した星崎定五郎もまた同じ収容所に入っていた。もっとも収容を行なった当事者である戦時外人隔離収容局は，この収容所を強制収容所（Concentration Camp）とは呼ばずに，転住所又は再配置センター（Relocation Center）と名付けていた。ナチスのそれを多少とも意識していたのであろうと思われるが，これほど多数の人間を，しかもアメリカ市民権を有する者までも強制的に隔離，収容するという違憲行為が行なわれた事実は，これまで必ずしも公開の討論の場にもち出されてきたとは言えないようである。加えてアメリカ史のなかにおいても正当な位置づけがなされているとは言い難く，無視された歴史の1ページとなっている。冒頭の短歌は，この頃一世移民によって作られたもので，「怒り」と題されている。

今日までこの事実に目をおおう日系人が多いことは，それだけ厳しかった現実を物語るものであるが，他方では過去を振り返るゆとりとそうせざるをえない周囲の情況によってであろうか，1960年代の後半から顕著になったことのひとつに，当時子供だった者，又はちょうど青春期を迎えていた二世たち自身をふくめた日系人のあいだで，この強制収容所体験を記録し始めたことがあげられる。小平尚道『アメリカ強制収容所——戦争と日系人』（1980年）のなかに次のような文章がある。

> 私は，戦後，長い間，誰かが収容所の生活を書くだろうと思っていたが，今日まで誰も書かないので私には不向きであるが，一世の平均年齢が八五歳になっては，もう書く人はいないから，どうしても，私がこれを書かなければならないという気持ちから，この仕事を始めることにした。戦時中，日本人が，収容所の中で，どういう生活をしたか，その記録を残しおくことは大切であると思ったからである。

概して，人間は年齢をかさねるにつれて，つまり，老齢になるにしたがって，未来を語るよりも過去のことに饒舌になるものであるが，上記に引用した文章は，この種の慰みものではないだろう。第三者に踏み込むことを許さない心の奥深い傷あとを，苦痛をともなう作業として，「どうしても，私がこれを書かなければならないという気持ちから」書いたのであり，その意味するところは，「暗い記憶を呼びさまして人びとを不安にするためでもなければ，否定的な感情に訴えるためでもない。ひとえに，自らの名誉回復の機会を与えられずに死んでいった，そのなかの多くの人びとに対して，私自身が自覚する明確な責任のため」（ミチコ・ウェグリン前掲書）であり，「こんなことは二度と起きるわけがない，と論ずる人たちには，その主張が多分まちがっているという警告」（ミチコ・ウェグリン前掲書）をわずかなりとも伝えたいがためであろう。

この傾向は，最近の出版物によくあらわれているが，強制収容所以外に題材をとったものを見てもわかるように，そのほとんどは1970年代に集中している。ジャンルも小説，回顧録，児童書，短歌，研究書とさまざまであるが，そのいずれも何らかのかたちで戦争中の体験，たとえばイタリア戦線への出征とか，アメリカへ忠誠を拒んだ「ノー・ノー組」などのそれにむすびついているのは，これらの戦時体験が彼ら日系人にとっては，自らの「存在」を考える時の原点になっていることを示すものであろう。そして，二世ばかりでなく，若い三世や四世のあいだでも別の感覚から，日系人の自己確認を求める作業として，この問題が避けては通れぬものとの認識をもち始めており，今日のアメリカにおける日系人文芸活動の一特徴となっている。たとえば，1971年に邦訳されたダニエル・沖本の『仮面のアメリカ人』のなかに次の一節がある。

自分自身を観察するとき，私は誇りと軽蔑，満足と不満，安心と心配といった対立要因が奇妙な混合体を形成しているのを感じていた。

たしかに生まれていらいこのかた，大部分の年月を，私はある種の確信と闘争しながら生きてきたといってよい。私は「仮面をかぶったアメリカ人」であり，アメリカ社会の一部ではあっても，どこかでその主流から外れてしまっている存在なのだ——という確信である。

この疎外感は，私の人生のそもそもの始まりいらい，絶えず，動かすことのできない事実として私につきまとっていた。私は移民である両親の最後の息子として，南カリフォルニアの競馬場の馬小屋で生まれた。この競馬場は当時西海岸に住んでいた日本人を，戦時収容所に送りこむための中断所になっていたものである。

日本人の地理的な隔離収容が終ったのちも，白人アメリカ社会との大きな心理的距離を意識する強い感情は，長い間消えることがなかった。この距離感は，白人多数者の側にある人種的先入観から生じた敵意によっても，いよいよ深刻化せざるをえなかったし，また私や私と同人種の者は〝部分的なアメリカ人〟でしかない，といった不隠な考え方がまかり通っていった。

引き裂かれた内面の表白であるけれども，ここから彼らが日系人自身の歴史の学習や文学創造へと向かうだろうと想像するのは，そうむつかしいことではないだろう。これと似たような屈折し，自閉した心理表現は，ジョン・オカダの小説『ノー・ノー・ボーイ』（1979年邦訳）にもみられるが，1981年11月4日付『北米毎日新聞』の英語面（日本語と英語が3対1の割合の日系人を対象にした新聞）に，日系アメリカ人作家としては比較的その名を知られたウチダ・ヨシコのことが載っている。「二世作家，日系アメリカ人のアイデンティティーを追求」とあり，そのあとに談話として，「アメリカ国内のさまざまな人種に対する関心の高まりにあって，私はアメリカにおける日本人の知られざる歴史をもっと調べたり，またその生活を書きしるすことをやろうと考えております。そして，このことが，ひいてはアメリカの若い世代の理解ばかりでなく，現在アジア系アメリカ人としてのアイデンティティーを捜し求めて，自らの歴史や文化を探究している日系三世にとって，大きな貢献になってくれることを念願しているのです。」（拙訳）とあるのもその一例である。そのほかに代表的な出版物のひとつとして，一世から四世までの作品を網羅した『日系米人文芸集　歩み』（1980年）をあげることができるけれども，この本は一世に対する愛惜の気持ちにあふれたものでありながらも，その根底を流れる主旋律は，以上に述べた日系アメリカ人社会の独立した精神の意志表示とでも言うべきものである。その意図を知るために少し長くなるが，序文を原文のまま紹介したいと思う。

Ayumi is a three year journey…… an adventure, a beginning, sometimes a pilgrimage. And here is the meeting place, the gathering, the celebration. This Anthology is the culmination of our search and discovery of inter-generation experiences of Japanese America. It needs no explanation, for it speaks, sings, affirms for itself: dirt beneath the fingernails, engrained deeply into the gulleys of the skin; the pain of being made prisoners for no crime other than race; the inhumane suffering of freedom lost, families torn, the dust of deserts; the celebration of each birth; and above all, the voices of survival.

In the late 1800's, the first Japanese immigrants came to America. Today there are five generations of Japanese in America, who bring into being a culture — uniquely Japanese American.

As in most areas of American society, paople of color have had to assertively make their own way, create their own alternatives, indeed, create new direc-

tions and avenues for themselves to be seen and heard. Publishing is no exception. The Japanese American Anthology Committee, an ad hoc group of many people from the Japanese American communities, have for three years been in the process of gathering, translating, researching works of our generations. Our special concern was the work of the Issei, the first generation, whose voices which have affected all our lives, have seldom been recorded. These pages contain only some of the expressions of the Issei, in their original and in translation.

The Issei Section Committee states, "We're gratified to find high quality works, which for the first time at least in part, would be translated into English. We're particularly impressed with the works of Issei women writers."

The Nisei, Sansei, and Yonsei Sections are filled also with great writers, many previously published and many emerging new voices.

Tht Graphics Committee has evolved through several stages of thinking and woking together. From the Japanese American graphic arts which portray the feelings, desires and experiences of our people, we have learned that there is no art for art's sake, that the artist is influenced by the social climate of each changing period. We feel that the works selected express the unique aspects of being Japanese American.

Ayumi is the ongoing journey to mark history, to walk through adversity, to endure, and to sing our connections — generation to generation.

約11万人余の日系人が，太平洋岸一帯から各地の強制収容所に入れられることになった大統領行政命令から，ちょうど30年をへた1972年2月19日，カリフォルニア協会が中心になって，サンフランシスコのデヤング博物館とバークレーのカリフォルニア大学美術館において，強制収容所のもようを伝える写真展「大統領令9066号」が開催され，わずか1カ月余のうちに20万人もの入場者を記録するとともに，同年のテレビ番組 Guilty by Reason of Race とあわせて大きな反響をよんだことは，やはり時の経過であろうか。

このような日系人社会の情況を考えた時，はしなくも沖縄戦について，それを体験した者たち，とくに一般住民が1970年頃からいちようにロを開き始めたことや「ひめゆりの乙女たち展」など一連の動きに似ている事実に気づいたのであるが，このことは単なる偶然の一致というわけでもないであろう。

これら日系人自身や非日系人による，強制収容所といういまわしい過去の告発の高まりのなかで，1976年2月19日フォード大統領は，ルーズベルトの行政命令を憲法違反であり，無効であるとの声明を出したのに続き，カーター大統領も1980年2月19日，この日をアメリカにとっての Day of Remembrance（想起の日）と制定したのであった。そして，現在は当時の失なわれた財産や精神的苦痛に対する損害賠償を求める裁判が進行中である。

しかし，この強制収容所に送り込まれた日系人は，何もアメリカ国内に居住していた者ばかりではなく，アメリカを遠くはなれた中南米にまで及んだのであり，アメリカ国務省は真珠湾攻撃以来,「西半球の安全に対して〝潜在的に危険〟だと思われる個人は，すべて抑留し，さらに望ましいなら米国政府当局に引き渡す」（ミチコ・ウェグリン前掲書）ように中南米諸国に要請していたのである。

一九四一年（昭和十六年）十二月，日米開戦の報が号外で町に流れると，直ちに〈リマ日報〉〈ペルー時報〉〈ペルー報知〉の三邦字紙は発行を禁じられた。そして翌年の一月二十四日，ペ

ルーは米国と協調して，日本との国交を断絶した。そして，つぎは日系社会の指導者の国外追放であった。日本人会会長，邦字紙関係者，日本語学校教師が，まずヤリ玉にあがり，つぎは各界の主要人物，そして一般の日系人にまでおよんだ。その追放先は，北米の強制収容所である。(中略)

日本移民たちは北米への追放におびえた。旅行かばん，毛布，衣類をそろえて最悪の事態にそなえた。この強制追放は目茶苦茶なところがあり，本人の身代りに弟が連行されたり，同姓の者が捕まったりした。ペルー当局によって身柄が拘束されると，取り調べは米国側の手に委ねられた。まるで頭数を揃えるためのように思えるほどだった。

追放は十五回にわたり一千七百七十一名がテキサス州の強制収容所へ送られた。

藤崎康夫「南米移民の光と影」(『新沖縄文学』45号所収)の一部であるが，ペルーの場合は，戦争による自国防衛という目的以上に，経済的に油断のならない競争相手となりつつあった日系人に対する反感のウェートが，よりいっそう大きかったことが指摘されている。このペルーからアメリカへ連行された者のなかには，数多くの沖縄出身移民が含まれていたと考えられるけれども，KANESHIRO, Takeo(ed). Internees－War Relocation Center Memoirs and Diaries. 1976. と題された小冊子の“The Story and Diary of Mrs. Kami Kamisato”の箇所を読むと沖縄からの移民家族がたどった数奇な運命の一端を知ることができるのである。

概略，今日の日系アメリカ人社会の精神動向を戦時中の強制収容所に焦点をしぼって見てきたけれども，このほかにも種々の出版物が出ており，その全体を概観することで，日系アメリカ人の広い意味での文芸思潮とでもいうべきものがわかるのではないかと考えられることから，大まかではあるが単行本を目録のかたちで案内したいと思う。これまで，日系アメリカ人の文学作品については，日本ばかりでなく，アメリカにおいてもほとんど評価されることなく放置されてきたと言われているが，『羅府新報』(1980年7月9日)に『ノー・ノー・ボーイ』に関連して，石川好「『見えない人間の文学』――日系文学論ノート」という次の短文が掲載されている。

「日本文学史」の文脈には，私の知るところ「自分ハ，ニホンジンナノダロウカ」を疑うような文学は存在せず，このように問うことは「日本」という国にとっては，かなり「反・日本的」なことだからです。というのは，私たち日本人は，他のいかなる人種よりも，単一民族であるがゆえに人種意識が強く，逆にまた島国であるがゆえに，「日本人」であると言う「人種の無意識性」を共通分母とした「実感信仰」を二千年にわたって守って来た民族でした。

その絶対的な「日本人」という「実感信仰」を，海を渡り，大陸に新生活を始めた「日本人」の周辺文化の中で，これに疑問を呈する作品が出現したことは，この作者が単に「二世作家」であるという理由によってだけでは無視できないものが感じられます。

むしろ，それを理論ずけ，その意味をさぐることによって，「日本人」と「日本史」に横たわる深い溝に光を当てることになり，海外「日系文学」の可能性を考える定点となるものと考えられます。

石川好の言う「日本文学史」によれば，沖縄は「日本」文学史につつみこまれるものではないらしく，私としては妙に安心したような気持ちになったけれども，それはともかくとして，今後これら日系人の活動は注目されてしかるべきではないだろうか。

なお，非日系人の著作は，強制収容所に関するものに限ったが，日系人のそれについては何らかの意味で参考になることを考慮して，そのワクにとらわれず，目についたものすべてを列記することにした。最後に，カナダにおいてもKOGAWA, Joy. Obasan. 1981.という小説などが出ていることを付記しておきたい。

I　日系アメリカ人による著作

1. NISHIMOTO, Richard S.and THOMAS, Dorothy S, The Spoilage. 1946.
2. 相賀溪芳『鉄柵生活』(1948年)
3. UCHIDA, Yoshiko. The Dancing Kettle and Other Japanese Folk Tales. 1949.
4. MORI, Toshio. Yokohama, California. 1949.(『カリフォルニア州ヨコハマ町』1978年邦訳)
5. 佐々木ささぶね『抑留所生活記』(1950年)
6. SONE, Monica. Nisei Daughter. 1953.
7. UCHIDA, Yoshiko. The Magic Listening Cap－More Folk Tales from Japan. 1955.
8. OKADA, John. No－No Boy. 1957.
9. 福田美亮『抑留生活六年』(1957年)
10. 東津久仁短歌会『歌集・移植林』(1958年)
11. UCHIDA, Yoshiko. Takao and Grandfather's Sword. 1958.
12. ——. The promised Year. 1959.
13. ——. Rokubei and the Thousand Rice Bowls. 1962.
14. ——. The Forever Christmas Tree. 1963.
15. TANA, Tomoe and NIXON, Lucille M. Sounds from the Unknown (みちのひびき)— A Ocllection of Japanese-American Tanka. 1963.
16. UCHIDA, Yoshiko. Sumi's Prize. 1964.
17. 古屋翠溪『配所転々』(1964年)
18. UCHIDA, Yoshiko. The Sea of Gold and other Tales from Japan. 1965.
19. ——. Sumi's Special Happening. 1966.
20. OKUBO, Mine. Citizen 13660. 1966.
21. UCHIDA, Yoshiko. In－between Miya. 1967.
22. KITAGAWA, Daisuke. Issei and Nisei－The Internment Years. 1967.
23. 岡崎銀子『サリナスの土』(1967年)
24. UCHIDA, Yoshiko. Sumi & The Goat & The Tokyo Express. 1969.
25. ——. Hisako's Mysteries. 1969.
26. HOSOKAWA, Bill. Nisei－The Quiet Americans. 1969. (『2世・このおとなしいアメリカ人』1971年邦訳)
27. SUGIHARA, Yoshie and PLATH, David W. Sensei and his people: The Building of a Japanese Commune. 1969.
28. 1869—1969 Wakamatsu Colony Centenial
29. OKIMOTO, Daniel I. American in Disguise. 1971.
30. UCHIDA, Yoshiko. Journey to Topaz －A Story of the Japanese－American Evacuation. 1971.
31. TEH JAPANESE AMERICAN CURRICULUM. Japanese Americans－The Untold Story. 1971.
32. OGAWA, Dennis M. Frcm Japs to Japanese: The Evolution of Japanese-American Stereotypes. 1971.
33. 『翁久允全集』(全10巻)1971年—1973年
34. MAYKOVICH, Minako K. Japanese American Identity Dilemma. 1972.
35. OKUBO, Mine. Mine Okubo: An American Experience. 1972.
36. SHIROTA, Jon. Pineapple White. 1972.
37. MIYAKAWA, Scott. East Across the Pacific. 1972.
38. UCHIDA, Yoshiko. Samurai of Gold Hill 1972.
39. HOUSTON (WAKATSUKI), Jeanne and HOUSTON, James D. Farewell to Manzanar. 1973. (『マンザナールよさらば』1975年邦訳)
40. MODELL, John (ed.). The Kikuchi Diary: Chronicle from an American Concentration Camp. 1973.
41. OGAWA, Dennis M. Jan Ken po－The World of Japanese Amaricans. 1973.
42. KITANO, Harry H. L. Race Rala-

tions. 1974.
43. MATSUOKA, Jack. Camp Ⅱ, Block 211—Diary Life in an Interment Camp. 1974.
44. TAKASHIMA, Shizuye. A Child in Prison Camp. 1974.
45. HOSOKAWA, Bill and YOSHIDA, Jim. The Two Worlds of Jim Yoshida. 1975. (『ジム・吉田の二つの祖国』1977年邦訳)
46. UCHIDA, Yoshiko. The Birthday Visitor. 1975.
47. ——. The Rooster Who Understood Japanese. 1976
48. WEGLYN (NISHIURA), Michi. Years of Infamy — The Untold Story of America's Concentration Camps. 1976.
49. YAMADA, Mitsuye. Camp Notes and Other Poems. 1976.
50. HOSOKAWA, Bill. Thunder in the Rockies. 1976.
51. FUKEI, Budd. Japanese American Story. 1976.
52. 田名大正『サンタフェ(ローズバーグ)ー抑留所日記』(第1巻—第2巻) 1976年—1978年
53. ドウス昌代『東京ローズ』(1977年) Tokyo Rose—Orphan of the pacific. 1979.
54. ISHIZUKA, Karen C. The Elder Japanese. 1978.
55. ALBERY, Nobuko. Balloon Top. 1978.
56. HOSOKAWA, Bill. Thirty-Five Years in the Frying pan. 1978.
57. UCHIDA, Yoshiko. Journey Home. 1978.
58. TANA, Tomoe. Tomoshibi, Lucille M. Nixon's Japanese Poem. Tanka Collection and Biography with her Study of Japanese Tanka poetry. 1978.
59. MORI, Toshio. Woman from Hiroshima. 1978.
60. KŌCHI, Paul. Imin no Aiwa (An Immigrant's Sorrowful Tale). 1978.
61. MIYATAKE, Toyo and ADAMS, Ansel E. Two Views of Manzanar: An Exhibition of Photographs. 1978.
62. OGAWA, Dennis M. Kodomo no tameni (For the Sake of the Children)—The Japanese American Experience in Hawaii. 1978.
63. カール・ヨネダ アメリカもうひとつの顔 (1978年)
64. SCOTT, Virginia (ed.). American Born and Foreign: An Anthology of Asian American Poetry. 1979.
65. MIYAKAWA, Edward. Tule Lake. 1979.
66. MORI, Toshio. The Chauvinist and Other Stories. 1979.
67. ODA, James. Heroic Struggles of Japanese Americans—Partisan Fighters From America's Concentration Camps. 1980.
68. HOSOKAWA, Bill and WILSON, Robert A. East to America—A History of the Japanese in the United States. 1980.
69. AOKI, Michiko Y. and DARDESS, Margaret B. As the Japanese See It: past and present. 1981.
70. UCHIDA, Yoshiko. Jar of Dreams. 1981.
71. JAPANESE AMERICAN CURRICULUM PROJECT. Wartime Hysteria: The Role of the press.
72. ヘンリー・桑原『鉄条網からの志願兵』(1981年)
73. ヘンリー・杉本『北米日本人の収容所』(1981年)
74. 白井昇 カリフォルニア日系人強制収容所 (1981年)

II 非日系人による著作

1. LEIGHTON, Alexander H. The Governing of Men－Geneca Principles and Recommendations Based on Experience at a Japanese Relocation Camp. 1945.
2. MCWILLIAMS, C. Prejudice ; Japanese Americans : Symbol of Racial Intolerance. 1945.
3. SHIREY, Orville C, Americns : The Story of the 442d Combat Team. 1946.
4. GRODZINS, M. Americans Betrayed－Politics and Japanese Evacuation. 1949.
5. WAX, Rosalie H. The Development of Authoritarianism : A Comparison of the Japanese－American Relocation Centers and Germany. 1951.
6. EATON, Allen H. Beauty Behind Barhed Wire. 1952.
7. TEN BROEK, J. and BARNHART, Edward N. and MATSON, FLOYD W. Prejudice, War and the Constitution. 1954.
8. EDMISTON, James. Home Again. 1955.
9. BARNHART, Edward N. Japanese American Evacuation and Resettlement : Catalog of Material in the General Librarcy. 1958.
10. CONN, S. and ENGLEMAN, Rose C. and FAIRCHILD, B. "Japanese Evacuation from the West Coast"in the United States Army in World War Ⅱ : the Western Hemisphere : Guarding the United States and Its Outposts. 1964.
11. FISHER, Anne R. Exile of a Race : A History of the Forcible Removal and Imprisonment by the Army of the 115.000 Citizens and Alien Japanese Who were Living on the West Coast in the Spring of 1942. (1965)
12. BOSWORTH, Allan R. America's Concentration Camp. 1967. (『アメリカの強制収容所』1972年邦訳)
13. SPICER, Edward H. and LUOMALA, K. and HANSEN, Asael T. and OPLER, Maruin K. Impounded People : Japanese－Americans in the Relocation Canters. 1969.
14. GIRDNER, A, and LOFTIS, A. The Great Betrayal : The Evacuation of the Japanese－Americans durig World War Ⅱ. 1969.
15. BURNS, James J. Roosevelt : The Soldier of Freedom. 1970.
16. LEHMAN, Anthony L. Birthright of Barbed Wire : The Santa Anita Assembly Center for the Japanese. 1970.
17. DANIELS, Roger. Concentration Camps USA : Japanese Americans and World War Ⅱ. 1971.
18. BAILEY, Paul. The Japanese Concentration Camp at Poston, Arizona ctiy in the Sun. 1971.
19. PETERSEN, William. Japanese Americans－Oppression and Succes. 1971.
20. MYER, Dillon S. Uprooted Americans－The Japanese Americans and the War Relocation Authority during World War Ⅱ. 1971.
21. JOCOBS. P. and LANDAU, S. and PELL, E. To Serve the Devil. 1971.
22. WAX, Rosalie H. Doing Fieldwork－Warnings and Advice. 1971.
23. CONRAT, M. and CONRAT, R. Executive order 9066. 1972.
24. DANIELS, Roger. The Decision to Relocate the Japanese Americans.

1975.
25. CHUMAN, Frank F. The Bamboo People: The Law and Japanese-Americans. 1976.(『バンブー・ピープル』上・下 1978年邦訳)
26. HANSON, James J. Nasakenai (We Are Forsaken). 1977.
27. GUNN, Rex B, They Called her Tokyo Rose. 1977.
28. GARRETT, Jessie A. and LARSON, Ronald C(ed.). Camps and Community: Manzanar and the owens Valley 1977.
29. HARRINGTON, Joseph D. Yankee Samurai-The Secret Role of Nisei in America's Pecific Victory. 1979.(『ヤンキー・サムライ』 1981年邦訳)
30. TEMPLEMAN, M. Kibei. 1979.

(いさしんいち: 閲覧係)

琉球大学附属図書館報"びぶりお" 第15巻 第1号〔通巻第53号〕臨時号
昭和57年2月27日 発行人 平良恵仁 沖縄県中城村字南上原858
電話(09889) 5 2221 内線(2143)